

## 第6章 学生支援

### 1. 現状の説明

#### (1) 学生が学業に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

「本学の学生が充実した学生生活を送れるよう、経済面から健康・精神面、及び課外活動、就職指導に至るまで、包括的な支援をきめ細かく行う」ことを学生支援の到達目標とし、基本方針としている（資料 6-1 p.91）。そのため、すべての学生が精神的、身体的、経済的に充実した学生生活を送り、自立した医療人として社会に出ることができることを願って、以下のように学内機構を整備し、学生支援方針を推進している。

#### 1) 学生支援センターの設立

学生支援を行う組織として 2008（平成 20）年に、それまで離れて設置されていた教務課、学生課、就職課を学生サービスの向上を目的として、間仕切りのない一つのフロアに配置して、学生支援センターとして統合した。さらに、1年後の 2009（平成 21）年に学生生活支援及び就職支援の更なる強化を目指して学生課と就職課を統合し、学生就職課とした。これに伴い学生委員会と就職委員会も統合し、学生就職委員会と組織変更を行い現在に至っている。

#### 2) 薬学基礎教育センターでの修学支援

薬学基礎教育センターにおける最重要課題が「成績不良学生の学習支援」である。取り組みとしては、第 4 章-3 で記載したように留年生支援、オフィスアワー、リトリーブアワー、PEDL（Pharmaceutical Educational Digital Learning）、PTESS（Psychological and Technical Educational Support System）などの支援形態により修学支援を行っている。

#### 3) 学生相談

学生支援センター内に学生相談室を設置している。学生相談室では、専門のカウンセラーが問題を抱える学生に個別に対応している。必要に応じて教職員と連携を図り、より良い学生生活を過ごせるよう支援している。

#### 4) 健康支援

学生支援センター内に医務室を設置し、常勤の看護師が学生の健康上の相談に応じ、体調不良・怪我などの処置にあたっている。また、学生が自らの健康づくりに定期健康診断を積極的に活用するように努めている。医療現場での実習にも備えて、結核、麻疹など感染症予防と対策を徹底している。

#### 5) 経済的支援

本学が独自に設けている奨学金制度の更なる見直しの結果、2012（平成 24）年に家計が急変し修学困難者への応急援助奨学生制度（資料 6-2 p.145）、2013（平成 25）年に上級学年対象に同窓会奨学生制度（資料 6-2 p.146）を設け経済的に問題を抱える学生の救済策を拡充した。また、休学時の授業料減免等について検討中である。

#### 6) キャリア支援

個々の学生が、自らの人生設計に基づいて自己理解を深め、現実的なキャリア形成の計画

を立案できるように、的確なアドバイスやタイムリーな情報提供を行っている。

#### 7) ハラスメント対策

本学のすべての構成員の尊厳と人権を尊重し、健全な生活を脅かすいかなるハラスメントも防止し排除できるように、関連する規程を整備した上で委員会等を設置し(資料 6-3)、『学生の手引』(資料 6-2 p.56-57)、パンフレット(資料 6-4)、掲示などを通じて周知することにより人権を尊重する精神の涵養に努めている。

### (2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

#### 1) オリエンテーション、ガイダンスの開催

薬学教育が6年制となり、入学者の多様化が進んだこともあり、休・退学者や留年生が増加している。本学では、すべての学生が順調に進級し卒業できることを目標として、修学を助ける次のオリエンテーションやガイダンスを適切な時期に開催している。また、事務組織及び教学組織の縦割りの弊害を取り払う措置を講じている。

##### ア. 入学時

「入学オリエンテーション」～学生生活と進路について、履修について～

「クラス別オリエンテーション」

「履修ガイダンス」

「早期体験学習オリエンテーション」

「学習ガイダンス(大学の勉強の仕方)」

「学習ガイダンス(物理系)」 「学習ガイダンス(化学系)」 「学習ガイダンス(生物系)」

##### イ. 進級時

「学年クラス別オリエンテーション」

##### ウ. その他

「病院実習・薬局実習ガイダンス」

「国家試験ガイダンス」

#### 2) 自学自習の支援

学生の自学自習を支援するため自習室を拡大している。しかし、自習室の利用状況を職員が見回って現状調査した結果、「学部学生実態・満足度調査」アンケートでも意見がみられたように、対面式の多人数用の机を少人数が占拠しているという問題が多発していた。そこで、「より多数の学生が利用できるように」、との学生の訴えに応え、自習室の効率的な利用を図るべく、手始めに11号館1階1111自習室の6名対面用の机から2名用の机に交換した上で机の配置を工夫するなど勉学の環境整備を試みた。その結果、自習室の利用効率は良くなりつつある。

#### 3) 「2013(平成25)年度神戸薬科大学学部学生実態・満足度調査」アンケートの実施と結果の解析

前述の「2013(平成25)年度神戸薬科大学学部学生実態・満足度調査」(資料 6-5)の結果を解析し、学生生活の向上に繋がる方策を多方面から検討している。

1年次4月のガイダンス(大学の勉強の仕方)については49.2%が、1年次4月の学習ガイダンス(化学系、物理系、生物系)については46.0%が役立ったと回答した。今後、開催時

期及び内容を検討する必要がある。また、クラス担任教員の対応については83.7%が、学生支援センター職員の学生への対応については83.8%が、ほぼ適切又は適切であると回答し、本学の特徴であるきめ細やかな修学支援が評価された。研究室では卒業研究に取り組める体制が整っているかの問いには82.1%が整っている、大体整っていると回答し、教育面だけでなく、研究面の支援も評価されていた。

設備面での修学支援については、卒業研究に取り組むための研究室設備に対し、80.0%が充実していると回答した。また、講義室の広さは67.3%が、講義室の黒板、スクリーンのサイズやマイク設備は71.5%が、講義室の座席は61.3%が、実習室の広さは72.4%が、実習室の実習設備は82.0%が、そして、自習室の広さは56.8%が適切又は大体適切であると回答した。設備面での改良が望まれている。

#### 4) 障がい学生に対する修学支援の実施

障がいのある学生が入学した場合は、学生支援センター（学生就職課、同医務室、教務課）がその支援にあたる。2007（平成19）年4月に両感音性難聴の障がいを持った学生が入学したが、その際には情報保証支援として、学生本人の希望する教科をノートテイク支援する援助を行った（資料6-6）。その他、講義、実習を受け持つ教員の協力を受け、この学生は2013（平成25）年3月に卒業をすることができた。現在、手指に軽度の障がいを抱えた学生が在籍し、医務室職員（上記）が氷嚢の手配などの支援を日常的に行っている。また、眼振を持つ学生へのケアとして、試験において拡大した解答用紙の準備や座席位置指定の配慮を、教務課で行っている。

#### 5) 奨学金等の経済的支援

本学では独自の奨学金制度を設け、学費の支弁が困難な学生について多様な経済的支援を行っている（資料6-2 p.30、6-7、6-8、6-9、6-10、6-11）。学部生の給付型奨学金として、各学年（2～6年次）10名、1年次は20名（後期のみ）を対象とする「神戸薬科大学奨学生制度（月額1万円）」を設けている。入学時に、二親等以内の親族が本学に在学あるいは本学を卒業している学生については、申請者全員を対象とする「神戸薬科大学同窓子弟奨学生制度（入学年度の入学金の半額を給付）」が設けられている。また、家計急変による修学困難者に対する「神戸薬科大学応急援助奨学生制度（半期授業料相当額在学中1回限り）」や保護者会（神戸薬科大学桔梗育友会）が設けている「神戸薬科大学桔梗育友会奨学生制度（貸与型、無利子、日本学生支援機構第一種私立大と同額等）」がある。

さらに、本学同窓会の篤志により、将来社会に有用な人材を育成することを目的として、「神戸薬科大学同窓会奨学生制度」が2013（平成25）年に制定された。上級学年（5年次及び6年次生）を対象とする卒業前の救済措置であり、年額30万円が毎年計6名に給付される。

学外奨学金には、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体や民間団体の奨学金があり、受給者は全学生の4割を占める。幅広く利用できるよう、奨学金制度に関するガイダンスを毎年の年度初めに開催し、周知を図っている。

大学院学生対象の奨学金としては、日本学生支援機構奨学金のほかに、本学独自の給付型「神戸薬科大学大学院奨学生制度（年間授業料相当額）」が設けられている（資料6-2 p.158）。これ以外に「神戸薬科大学リサーチ・アシスタント（RA）」、「神戸薬科大学ティーチング・

アシスタント (TA)」の制度があり、奨学に資することを目的として、それぞれ大学院学生を採用している。

### (3) 学生の生活支援は適切に行われているか。

#### 1) 心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮

上記のように学生支援センターに医務室と学生相談室が設けられている。医務室には看護師 1 名が常駐し、怪我や病気等の救急処置・療養の場としてのみならず、健康相談の場としても有効に機能している。心身の健康問題を有する学生の相談に応じ、必要に応じて医療機関へ紹介し受診を促している。それらの記録から月別に医務室利用状況を集計し、個人及び集団の健康問題を把握している。学生相談室では、非常勤のカウンセラー 1 名が、週 2 回、学生の相談に応じている。学生の心理面での健康保持・増進を援助し、学生生活における様々な悩みを一緒に考え、解決の糸口を見つけるための相談、支援活動を行っている。最近ではメンタルヘルス問題の内容が多岐にわたり、深刻化、長期化しつつある。この問題を踏まえて、学生就職課ではカウンセラーと問題を抱える学生の情報を部分的に共有し連携しながら解決に向けて取り組んでいる。

定期健康診断は全学生を対象に 3 月末から 3 期に分けて実施している。学校保健安全法で定められている身体測定、検尿、視力測定、内科検診、胸部 X 線撮影を全員についての検査項目とし、運動クラブに所属する新入生には心電図検査を追加している。健診の最後には問診票の自覚症状についてチェックし、メンタル不調が疑われる学生に声をかけ、その場で看護師が面談している。健診受検率は約 95% で事後措置にも学校医と相談しながら力を入れている。その他の特殊健診として「電離放射線障害防止規則」に従い、放射線取扱主任者の指示のもと、電離放射線を使用する学生を対象に年 2 回の健診を実施している。

医療施設での実務実習に対応し、実習開始(5 年次)までに感染予防対策を徹底させている。

実習中に患者と学生間の感染が起こらないよう、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体検査、ツベルクリン反応検査を学内で実施し、抗体価が基準に達していない場合は、ワクチン接種を必須としている。日常生活においても、電子掲示板やポスターを使って感染予防に関する知識の提供や注意喚起を行い、セルフケアの支援と促進に務めている。

学生が安心して勉学や研究に邁進できるように、不慮の事故や実習中に起こりうる事故に備えて学生教育研究災害傷害保険に加入している。この保険の適用外、あるいは治療費が保険金額を上回る場合は、保護者会(神戸薬科大学桔梗育友会)との協力による「神戸薬科大学桔梗育友会災害補償金規程」(資料 6-2 p.150)によって補償している。

学生の喫煙については、本学敷地内全面禁煙を目指している。現状では、臨時の対応として喫煙場所を設け、喫煙のマナーを指導しているが、最終的には臨時喫煙所を撤廃することを目標に禁煙啓蒙活動を行っている。

#### 2) ハラスメント防止のための措置

ハラスメントのない環境下で就学や就業する権利を保障するため、2010(平成 22)年に「ハラスメント防止等に関する規程」を制定した(資料 6-3)。ハラスメントに関する相談と申立の窓口として、様々な職階と立場の相談員 6 名と 2 つの事務部門を置き、厳しい守秘義務を課して、いつでも相談できる体制を敷いている。このことは『学生の手引』や「ハラス

メント防止のしおり」(資料 6-4)に記載している。これを新入生オリエンテーションなどで配布し説明することにより、人権を尊重する重要性を教育するとともにハラスメント防止に努め、問題が起こりそうであれば早目に相談に来よう学生や教職員に広報を行っている。申立てがあった場合には、ハラスメント防止委員会が学長に要請し、ハラスメント調査委員会を設置し、問題解決に当たることとしている。

#### (4) 学生への進路支援は適切に行われているか。

学生の就職活動を支援するために、「学生就職委員会」が設置されている。教授会で選出された学生就職部長を委員長とし、同様に選出された委員 6 名で構成されている。「学生就職委員会」で推進方針を決定後、事業運営を正規職員 6 名と非常勤職員 1 名で構成される学生支援センター学生就職課(以下「学生就職課」という)が担っている。学生就職課は、学生が目指す職業に対して意欲や具体的なイメージを持ち、主体的にキャリアデザインができるように的確なアドバイスやタイムリーな情報提供を行っている。

主な進路支援内容は、次のとおりである。

- 1) 低学年次より自分の将来への展望を意識した考え方や準備ができるよう、全学年対象とした「キャリアガイダンス」、「キャリア教育講座」、「ビジネス・マナー講座」、「MR 仕事研究講座」を行っている。
- 2) 進路を決定する段階である高学年次対象の「キックオフセミナー」、「職種紹介セミナー」、「論作文対策講座」、「履歴書・エントリーシート講座」、「模擬面接・模擬グループディスカッション」、「自己分析ワークショップ」(以上、5 年次対象)「病院ガイダンス」、「公務員ガイダンス」、「模擬面接・模擬グループディスカッション」(以上、6 年次対象)などが挙げられる。

このように様々な学生の進路を支援する、ガイダンスなどを、年に 26 回設けている(資料 6-12)。

「キャリアガイダンス」の内容は、外部講師による「各業界の動向と職種について」、「社会人基礎力とコミュニケーション力」、6 年次内定者による「パネルディスカッション(就活体験談)」である。「キャリア教育講座」の開催は今年度で 4 回目となる。著名人によるご自身のキャリアを通じての講演を聴くことによって、学生たちには社会で働くことの責任や魅力を感じ取ってもらうことが目的である。「ビジネス・マナー講座」は、本学の単位制インターンシップ参加者には必修としており、公募制インターンシップ参加者の多くもこの講座を受講している。社会と触れ合う第 1 歩となるインターンシップで、ビジネス・マナーを身につけて臨む本学学生は、受入れ先企業から「好印象である」との評価を受けている。「MR 仕事研究講座」も学生から好評を得ている講座の一つである。MR (Medical Representative: 医薬情報担当者)志望者を対象とし、製薬メーカーの採用担当者を大学に招き MR の仕事内容について詳細に説明してもらい、さらに、ワークショップなどを体験することによって実感として MR 職への理解を深めることが目的である。

また、薬学部生の重要な進路先である公務員職への進路支援として「公務員試験対策講座」(資料 6-13)を開催している。外部講師による 37 コマの講義を学内で実施することにより、受講料の大幅な低廉化を実現している。

さらに、本学で実施するカレッジ TOEIC や単位制インターンシップ（資料 6-14）への参加を呼びかけている。キャリアカウンセリングを中心とした、一人ひとりの個性や可能性を尊重した支援にも注力している。

## 2. 点検・評価

### ●基準 6 の充足事項

学生就職委員会を中心に、学生生活面での支援体制について検討を進めることにより、学内環境を整備し、経済面、精神面での支援体制を整えて、すべての学生が健全で充実した学生生活を送れるように注力しており、同基準はおおむね達成している。

#### ①効果が上がっている事項

##### 1) 新入生入学時の対応

入学式後に大学生活を円滑に進めていくため、入学直後に順次実施される各種オリエンテーション等の日程表（資料 6-15）を、「入学式のお知らせ」とともに入学予定者に入学式前に送付している。1 年次当初のスケジュールを事前に知らせることによって、大学生活開始時の不安解消につながっており、事前に認識している状況での「入学オリエンテーション」、「履修ガイダンス」、「大学オリエンテーション」等の実施は、大学生活への導入に役立っている。

##### 2) 給付型奨学金の充実

本学では学費減免等の制度がないため、奨学金制度を充実させることにより緊急措置として経済的に修学困難な学生を支援している。上記のように、最近、新たな給付型奨学金制度を設け、これまでならば退学を選ばざるを得なかった学生を救済するための体制を整えている（資料 6-16）。

##### 3) 健康管理の充実

医務室利用者の記録を作成・保存し、前回の症状との比較や経過を確認するのに役立っている（資料 6-17）。特に生活習慣や精神面の健康に問題がある学生については、記録から問題点を把握し、具体的な目標設定や生活改善の提案を行うことにより、問題解決の動機付けや行動変容につながると期待される。

定期健康診断では、身長・体重と視力を自己申告から実測に変更し、正確な健康指標による生活習慣の改善指導が可能になった。定期健康診断の受検率は全体としては高いが、学年別に見ると中間学年がやや低く、2013（平成 25）年度では 3 年次が 87%であった（資料 6-18）。対策として、最近増加している結核の早期発見に着目して周知徹底を図ったところ、受検率が全学年で 95%以上と改善した。また、別に実施していた運動クラブ員の心電図検査を定期健診に組み込むことで合理化を図った。学内健診未受診者に対しては、指定の医療機関で受診する場合に限り費用は大学負担とした。健診有所見者の医療機関受診を促すため、本人及び担当医が理解しやすい「再検査・精密検査依頼書」（資料 6-19）を作成した。再検査、精密検査の受診率向上の一助になると期待している。

6 年間在籍中のカルテに代わるものとして「健康管理票」（資料 6-20）を作成した。緊急連絡先、既往症、通院や内服状況、障がいの有無等が詳細に記載されており、緊急搬送されて意識がない場合でも、医療機関に必要な情報を伝えることができる。

#### 4) キャリア支援の充実

学生相談の専任者（企業経験者）を2014（平成26）年4月に採用したことにより、前度の2倍近い相談件数がある（資料6-21）。カウンセリングに専念できるため、1名の学生にかかる時間を従来の30分から1時間へ増やすことが可能になり学生により良い支援を図れるようになった。

#### ②改善すべき事項

##### 1) 薬学基礎教育センター

時間割の都合から、オフィスアワーの回数が減ってきているので、時間と講義担当教員とのマネージメントを行い、回数を増やす必要がある（資料6-22）。

##### 2) 休学者の学費減免の支援

現在は、学期の初めに休学許可された学生には、学費の半額分を返還している（資料6-23第33条）。しかし、少なからぬ負担であるため、休学者の学費を更に減免するなどの救済支援の検討が必要である。

##### 3) 学生相談室の拡充

学生相談室は1名のカウンセラーで運営し、1.5日/週の相談日を予約制で設けているが、学生の授業時間割が過密な上、相談日の曜日が決まっていることから、予約が困難な状況にある（資料6-24）。

##### 4) キャリア支援

2013（平成25）年度に6回開催した就職活動を支援するためのガイダンスでは、参加可能者の約66%が参加しており効果的であった。しかし、年3回開催したキャリアガイダンスは、授業時間割の都合により開催日を休日にせざるを得ないため、参加者が各回約30名程度と少なく、効果が疑問視されている（資料6-25）。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

##### 1) 新入生入学時の対応

入学直後の各種オリエンテーションをより相互に連携するよう企画し、新入生が大学生活を不安なくスタートできるような対応を計画する。

##### 2) 給付型奨学金の充実

給付型奨学金制度を一層充実させて、成績が優秀であるにもかかわらず、これまでならば退学を選ばざるを得なかった学生が勉学に励むことができる支援計画を進める。

##### 3) 健康管理の充実

健康診断の高い受検率を維持し、有所見者の受診勧奨が進められるよう、学生の健康意識を高め、徹底した保健指導を継続していく。健康に関する自己管理能力を育て、健康診断結果の保健情報を活用し、生涯にわたる健康保持増進につなげていく。

##### 4) キャリア支援の充実

現在、本学出身者への求人者数は約10倍となっており、非常に恵まれた状況にある。2014（平成26）年3月卒業者における就職者の進路状況は薬局44.8%、病院20.6%、企業16.6%、

公務員 4.7%、教育 1.1%となっており、薬局が過半数近くを占めている（資料 6-26）。学生が各自の将来を見据えて、薬学生本来の多様性のある職業や就職先を選ぶことができるようにサポートをしたいと考えており、キャリアガイダンスの代わりに 2015（平成 27）年度から 4 年次前期に「キャリアデザイン講座（選択科目）」を開講することとした。より多くの学生がキャリアデザイン力を身につけ、バランスの良い進路状況になるように計画している。

## ②改善すべき事項

### 1) 薬学基礎教育センター

一般授業のビデオ撮影を恒常化して e-ラーニングの充実を図ることにより、成績不良学生への学習支援の強化につなげたい。

### 2) 休学者の学費減免の支援

他大学では、本学が休学者に対して現在納付させている額より低額を、在籍料として納入させている。本学でも休学者に対する更なる学費減免の検討を始めている。

### 3) 学生相談室の拡充

今後も精神面に問題を抱える学生が多様化、深刻化することが予想されることから、カウンセラーの増員について検討中である。

### 4) キャリア支援

2015（平成 27）年度から、4 年次前期に授業科目として「キャリアデザイン講座（選択科目）」（資料 6-27）を開講する予定である。多数の学生が受講し、教育効果も上がることを期待している。

## 4. 根拠資料

6-1 『神戸薬科大学自己点検・評価報告書—大学基準協会大学評価申請 2008—』（既出 資料 1-12）

6-2 『2014 年度神戸薬科大学学生の手引』

6-3 「神戸薬科大学ハラスメント防止等に関する規程」

6-4 『ハラスメント防止のしおり』

6-5 「2013（平成 25）年度神戸薬科大学学部学生実態・満足度調査」報告書

（既出 資料-3-20）

6-6 情報保証支援（ノートテイカー）

6-7 「神戸薬科大学奨学生規程」

6-8 「神戸薬科大学同窓子弟奨学金規程」

6-9 「神戸薬科大学応急援助奨学生規程」

6-10 「神戸薬科大学同窓会奨学生規程」

6-11 「神戸薬科大学桔梗育友会奨学生規程」

6-12 平成 25 年度神戸薬科大学就職支援事業計画

6-13 「神戸薬科大学公務員試験対策講座日程」

6-14 「平成 26 年度単位制インターンシップガイド」

6-15 新入生 4 月スケジュール



- 6-16 神戸薬科大学の奨学金給付者数一覧
- 6-17 医務室利用者記録
- 6-18 定期健康診断の受検率
- 6-19 再検査・精密検査依頼書
- 6-20 健康管理票
- 6-21 進路相談件数
- 6-22 各年度前期後期オフィスアワー科目と回数と延人数
- 6-23 「神戸薬科大学学則」(既出 資料 1-2)
- 6-24 学生相談室利用状況
- 6-25 キャリアガイダンス出席学生数推移(平成 25 年度神戸薬科大学就職支援事業計画)
- 6-26 神戸薬科大学ホームページ 平成 25 年度 3 月卒業生の進路状況  
([https://www.kobepharma-u.ac.jp/course/course\\_situation.html](https://www.kobepharma-u.ac.jp/course/course_situation.html))
- 6-27 「平成 27 年度事業計画」(既出 資料 1-17)